

焼却灰等搬入出車両の安全管理規則

平成14年 4月 1日 制定

山口エコテック株式会社

目 次

第1章	総 則	3
第2章	安全運行管理	3
第3章	運搬車両	3
第4章	入構車両および入構者	4
第5章	構内安全の管理等	5
第6章	事故時の緊急措置	6
第7章	安全協議会	6
	附 則	6

第1章 総 則

第1条 (目 的)

この規則は、各焼却施設管理者との契約により各運送会社が山口エコテック株式会社（以下、「会社」という）に搬入する焼却灰、搬出する脱水ケーキおよび返却異物（以下、「焼却灰」という）の運搬に関して、一般公道および会社の構内を運行する運搬車両とその運転者の安全運行と事故防止により、周辺地域住民の生活環境の維持および会社構内の安全を図るために定めるものである。

第2章 安全運行管理

第2条 (運転者の教育)

運送会社はその車両の運転者に対して、焼却灰の安全な取扱い、事故防止対策等について定期的な教育を実施し、焼却灰の運搬時の安全運行と事故防止および事故時の適正かつ迅速な処置に努めるとともに、当該運転者の資質の向上に努めなければならない。

第3条 (運行管理)

構内における規律の維持、安全を図るため、運送会社および入構車両の運転者は、本規則および関係法令を遵守しなければならない。

2. 運送会社は、適正な運行管理体制に基づいて運行できること。
3. 運転者は、会社の本規則を充分に理解できる能力が有り、かつそれらを適正に遵守できること。
4. 運送会社がこれらの適正な管理ができず、会社の注意によっても改善されない時には、当該運送会社の入構を拒むことが出来る。

第4条 (搬入経路)

各焼却施設から会社に搬入する経路は、会社が指定した経路によること。

2. これに違反して、関係監督機関や周辺地域住民等から会社に通報があった場合には、会社は当該運送会社の車両の入構を認めないものとする。

第3章 運 搬 車 両

第5条 (車両の仕様)

焼却灰の搬入出に使用する車両は、下記の仕様により車両会社が製作し、かつ各焼却施設管理者および会社が、予め承認した特殊車両であること。

- (1) 主灰運搬車両：金属製の天蓋付の水密構造であること
- (2) 飛灰運搬車両：気密構造であり、車両転倒等の事故において、内容物の漏洩がないこと
- (3) 脱水ケーキおよび返却異物の運搬車両：主灰運搬車両と同様とする。

2. 主灰搬入用の車両に対しては、会社は車両製造会社が発行した水密試験の試験成績書の提示を求め、その内容を確認する。

3. 車両のマフラーには、別途定める火の粉防止装置（スパレスターか金網）を装着しなければならない。

4. 前各項において、会社が不適合車両と判断した場合は、当該車両の入構を認めないものとする。

第6条（車両の清掃）

搬入出車両は、焼却灰以外の異種物の混入を防止するために、清浄にしておくこと。

第4章 入構車両および入構者

第7条（入構車両）

会社が入構を許可した車両以外は、入構できない。

2. 車高が3.8mを超える車両は、入構できない。

第8条（入構車両の承認）

運送会社は、予め会社に所定の入構車両申請書を提出して、会社の承認を受けなければならない。

2. 会社は適正な入構車両申請書に対して、入構車両許可証を交付する。

3. 入構車両許可証は、車両の所定の位置に掲出しなければならない。

4. 入構予定車両および入構を許可した車両であっても、会社が不相当と判断した場合は、入構を拒否することができる。

第9条（入構者）

会社が入構を許可した者以外は、入構できない。

第10条（入構者の承認）

入構者は、予め会社に所定の入構者申請書を提出して、会社の承認を受けなければならない。

2. 会社は適正な入構申請者に対して、通門証を交付する。

3. 入構者は通門証を常時携帯し、会社の求めに応じて、掲示しなければならない。

4. 入構を許可した者であっても、会社が不相当と判断した場合は、入構を拒否することが出来る。

第11条（入構者安全教育）

入構者申請書を提出した者は、入構者安全教育を受講しなければならない。

第12条（管理上の指示命令）

構内の規律を維持するため、会社は会社役員、各職制による命令のほか、従業員および会社が雇用する運転補助員を介して入出構車両の運転者、入構者に対して指示、命令することができる。

2. 指示を受けた入出構者は、その指示内容を速やかに遵守しなければならない。

第5章 構内での安全管理等

第13条（車両の入出構）

入出構車両は入出門の際には、会社の正門の所定の位置で一旦停止して安全を確認しなければならない。

第14条（構内交通）

構内での走行は、徐行（10km/H以下）とし、道路標識・表示に従うこと。

第15条（構内での遵守事項）

構内において車両運転者は、次に掲げる各号を遵守しなければならない。

- (1) 車両の運転者は、走行中に携帯電話等を使用しないこと
- (2) 車両を離れる時は、ヘルメットを着用すること
- (3) 構内で発生した交通事故は、遅滞なく会社へ届け出ること
- (4) 焼却灰、ケーキ、異物、磁着物の運搬車両は、必ず積載時、非積載時の2回計量とすること
- (5) 計量車両が重複した場合、構内出構車両を優先とする。待機車両は、別図に示す場所で待機すること
- (6) 入出構する車両は、モータープールを必ず通過すること
- (7) 飛灰を荷卸する時は、適正な保護具を着用すること
- (8) 飛灰荷卸口の清掃は、会社備え置きの掃除機にて必ず行うこと
- (9) 主灰運転手は、荷卸時にホッパ残量を目視で全量荷卸が出来ることを確認すること
- (10) 主灰荷卸開始前に格子に付属したパイプレータを運転し終了後は停止すること
- (11) 当該格子上の異物は取除きの上、会社備え置きの容器にいれること
- (12) 主灰荷卸終了後ホッパー付近のこぼれた灰は会社備え置きの用具で清掃を行うこと

第16条（駐 車）

入出構車両は、会社が指定した駐車場以外に駐車してはならない。

第17条（喫 煙）

会社構内では、会社が指定した場所以外では喫煙してはならない。

第18条（無断立入の禁止）

会社が許可した場所以外は立入り禁止とする。

2. 許可を受けずに立入った者は、直ちに退場させる。

第19条（入構禁止）

入構者が、次に掲げる各号の1つに該当する時は、入構を禁止することがある。

- (1) 凶器、作業に必要な物および危険物を所持しているとき
- (2) 酒気を帯びているとき

- (3) 暴行、暴言、脅迫、教唆、煽動またはこれらに類似の行為をしたとき
- (4) 会社の許可なく撮影機等の記録用の機器を、構内へ持込んだとき
- (5) 許可なく会社や社員の物品を持出し、または持出そうとしたとき
- (6) 所定の場所以外で喫煙したとき
- (7) 故意、怠慢または重大な過失により会社の機械、器具、建物、工作物等を故障、破損、紛失したとき
- (8) 会社業務を妨害したり、本規則に度々違反したとき
- (9) その他、会社が入門を不相当と認めたとき

第20条（入構制限）

入構者が、次に掲げる各号の1つに該当するときは、入構を制限することがある。

- (1) 安全衛生並びに公害・災害防止に関する規則または指示に違反したとき
- (2) 会社の秘密を第三者に漏らしたとき
- (3) 通門証を他人に貸したり、他人に借りて入門したとき
- (4) 入構者申請書に記載された本籍、住所、氏名、生年月日、職種、経歴に偽りがあるとき
- (5) 風紀や作業規律を乱したとき
- (6) 不正行為やその他、各号に準ずる行為をしたとき

第6章 事故時の緊急措置

第21条（公道での事故責任）

運送会社の公道における事故への対処および漏洩した内容物の処置は、運送会社が自らの責任において、関係監督機関の指示に基づいて、適正かつ迅速に実施すること。

第22条（運送会社の事項防止体制）

運送会社は事項防止のために、日常から次の体制を整備するとともに、これらの事故を想定した模擬訓練を、半年に1回以上、実施すること。

- (1) 事故対応のための社内組織の確立
 - (2) 緊急連絡方法の徹底
 - (3) 漏洩した焼却灰の飛散、散逸を防ぐための応急措置
 - (4) 漏洩した焼却灰の回収と清掃のための車両、機器、備品等の確保と整備
 - (5) 関係監督機関への迅速な連絡、周辺市民等への対応および会社への速やかな連絡
 - (6) 回収した焼却灰の適正な処分
2. 運送会社は前項の模擬訓練の実施内容を、その都度、会社に文書で報告すること。

第7章 安全協議会

第23条（安全協議会）

会社は本規則の円滑な運用により、構内での安全確保と規律の維持のために、別途定める安全協議会を置く。

2. 会社に入構する全ての運送会社および事業所は、この協議会に入会するものとする。

附 則

1. この規則は平成14年 4月 1日から施行する。